

河川再生の情報共有と協働の交流基盤構築に関する研究

ー日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)の2022年度活動報告ー

A report on the development of exchange platform for information sharing and collaboration toward river restoration: Activities of the Japan River Restoration Network in 2022

水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 和田 彰
 審議役 土屋 信行
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 阿部 充
 水循環・まちづくり・防災グループ 一般職員 後藤千佳子
 水循環・まちづくり・防災グループ 研究員 北澤 史
 自然環境グループ 研究員 白尾 豪宏

1. はじめに

川づくりについて共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報交換を通じ、各地域に相応しい川づくりの技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に、2006年に「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」が設立され、当研究所は設立当初より事務局を務めている。また、このJRRNは、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、韓国、中国、台湾など海外機関との連携を通じて、日本の優れた知見を海外に向けて発信するとともに、海外の事例情報等を日本国内に還元する役割を担っている。

本稿では、2022年度に当研究所がJRRN事務局の運営を通じて実施した川づくりに関わる情報共有基盤の整備、担い手育成に向けた普及・啓発活動、及び国際連携の取組みについて報告する。

2. 2022年度のJRRN活動内容

2-1 川づくりに関わる情報共有基盤の整備

国内外の川づくりに関するニュース、行事、各地の取組み、新刊書、施策等の最新情報を、ウェブサイト、facebook等のSNS、ニュースレターなどの情報媒体を通じて広く社会に発信した(表-1)。

また、国内外関係機関からの各種提供情報の共有や、毎年春に実施する「桜のある水辺風景」応募作品の紹介などを通じて、川づくりの魅力や関連情報と担い手を繋げる情報共有基盤の強化に努めた。

表-1 2022年度 情報共有の活動実績 ※()前年度

JRRN 情報媒体	頻度	合計
ウェブサイト	随時	173件 (228件)
facebook	随時	80件 (62件)
ニュースレター	隔月発行	6回 (11回)

2-2 川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発や協働・支援～小さな自然再生の普及促進～

JRRNでは、①自己調達できる資金規模であること、②多様な主体による参画と協働が可能であること、③修復と撤去が容易であること の3条件を満たす水辺でできる「小さな自然再生」の普及促進を2014年より基幹事業として実施し、講演会や現地研修会等の交流行事の企画運営、事例集やウェブサイト、データベース等の支援ツールの整備に取り組んでいる。

2022年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止の観点から規模を縮小しての開催となったが、共催及び協力・後援団体関係者、講師や現場技術指導役として協力頂いた「小さな自然再生」研究会の専門家チームの協力を得て、全3回の「小さな自然再生」現地研修会を開催した。

これまで開催した現地研修会の開催地を図-1に、また2022年度に実施した3回の現地研修会の概要と写真を表-2、写真-1に示す。



図-1 これまでの現地研修会開催地 (全17回)

表-2 全3回の現地研修会開催概要

行事名	第15回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2022年9月10日(土)～11日(日)
開催場所	徳島県神山町 吉野川流域鮎喰川
主テーマ	小さな自然再生のワクワクで地域と川をつなげよう
主催	一般社団法人神山つなぐ公社、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
協力	神山町、滋賀県立大学環境科学部・瀧研究室
参加人数	52名
行事名	第16回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2022年12月11日(日) 9:00～16:00
開催場所	京都府宮津市 大手川
主テーマ	フナの里帰り:自然と親しむ空間を復活させよう
主催	宮津天橋高等学校フィールド探究部、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
協力	京都府丹後土木事務所、宮津市教育委員会
参加人数	53名
行事名	第17回「小さな自然再生」現地研修会
開催日時	2023年1月14日(土) 9:30～16:00
開催場所	茨城県土浦市 霞ヶ浦
主テーマ	浄化施設導水路と湖をつなぐ魚の通り道をつくろう
主催	特定非営利活動法人水辺基盤協会、「小さな自然再生」研究会、日本河川・流域再生ネットワーク
協力	国土交通省関東地方整備局霞ヶ浦河川事務所
参加人数	32名



写真-1 徳島(上)、京都(中)、茨城(下)

2-3 川づくりの国際的な技術交流

(1) 韓国河川協会との河川管理に関わる技術交流

2022年10月25日(火)～28日(金)の4日間、韓国河川協会の視察団(自治体職員18名及び韓国河川協会職員5名の計23名)が首都圏の治水対策や河川環境の視察を目的に来日し交流した。韓国河川協会はアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の韓国窓口KRRNの事務局組織でもあり、視察先の事前調整や現地案内等をJRRNが担った。

(2) ARRN主催「第16回ARRN運営会議」及び「第18回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」

2022年12月7日(水)に、ARRN理事会に相当する「第16回ARRN運営会議」、及び「第18回ARRN水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」を「NBS-based Ecological Restoration and Integrated Management of River Basins」をテーマにオンライン開催し、日中韓の川づくりの更なる連携に向けた審議や最新の知見の共有を目的とした技術交流を行った。

3. おわりに

JRRNの諸活動は国内外連携機関との協働で成り立ち、また小さな自然再生の普及促進活動は、(公財)河川財団の河川基金の助成を受け、「小さな自然再生」研究会や自治体等との協働で実施した。当活動にご支援・ご協力頂いた皆様に厚く感謝を申し上げる。



写真-2 韓国河川協会交流(上/中)、ARRN行事(下)